

平成 30 年度 学校関係者評価報告書

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成 29 年度自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

(委員長) 村山 忠 公益社団法人 園芸文化協会 事務局
(委員) 草間 祐輔 住友化学園芸株式会社 普及部長
大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会会員
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
桃木 好之 本校卒業生
株式会社花弘 制作デザイン マネージャー
高野真樹子 本校卒業生
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
(事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
水本寿美江 同 教務部長
小池 智子 同 フラワーデザインコース長
永井 建 同 総務部長 (欠席)

2. 実施日時 平成 31 年 1 月 17 日(木) 14:00～16:30 於. 4 階教室

3. 平成 29 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

現状の通り、理念・目的・育成人材像は外部に発信し続けることとともに、学校の将来構想をより明確にし、その実現に努めていくこと

2) 学校運営

- ・大よその運営方針や事業計画は定められているので、しっかりとそれにそった運営をすること
- ・業務の効率化を図るために、情報システムの構築化を進めていくこと。

3) 教育活動

- ・学校はより積極的に講師とのコミュニケーションを図り、常によりよい授業運営がなされるように努めていくこと。また、企業訪問によるヒアリングも、より積極的に行うこと
- ・個々の授業に対する学生の評価を得ることは極めて重要であり、必ず実行すること
- ・学生の実力に合った講師を開拓し、教育することが大切であり、講師自らが学生に合った授業内容を試行していくように働きかけるべきである

4) 教育成果

- ・就職率、資格取得率については高い水準を保っていることは、教育成果の現れであるので、今後も、より一層の質の向上を図ってほしい
- ・教育効果を高めるためだけでなく、退学率の低下のためにも、入学した早い段階・実践的な授業や活動に入る前の段階で、様々な機会や講師・イベントなどを活用して、知見の幅を広げ、夢の実現への希望を持たせること、現実とのギャップを埋めていくように工夫すべきである

5) 学生支援

- ・学力・技術面のみではなく、精神面でも不安定な学生が増えてきている。このような学生には挫折感を与えないよう様々な角度から学生支援を続けてほしい
- ・学生のコミュニケーション能力の向上のために、課外活動や座談会などを通じて教員・講師・学生の間を発信側と受け手側以外の関係にするよう努めていってはどうか？その際、あくまでも学校主体の運営となるよう、運営方針をしっかりと固めることが極めて重要であろう

6) 教育環境

経営上可能な範囲で整備を続けていくべきであろう

7) 学生の募集と受け入れ

学生募集活動は問題なく行われている

8) 財務

中長期的な安定に向け、学生数の増加に注力を継続していくこと。カリキュラムや時間割を工夫し 2 部制にする、定年後のシニア層向け講座を開設するなど、時代の変化に合わせた何かしら臨機応変な対応も今後必要となるであろう

9) 法令等の遵守

特に問題ないと思われるが、できる限り早期に自己点検・評価の結果を公開して、積極的に問題点の改善につとめてほしい

10) 社会貢献

学校の認知度の向上、学生募集にもプラス効果とするためにも、地域の社会貢献活動やイベント参加など、今後積極的に増やすべき。カリキュラムとの連動や金銭的補助など、学生の学習意欲向上にもつなげていけるよう、学校としての体制を整えていくこと

3. 総評

上記 10 項目について、東京テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、教育活動など一部の項目については、さらなるレベルアップを図るための意見、提案が多く出されたことから、次年度以降一層の注力を望みます。

以上